

# 子どもの育成と安全を 作るPTAへ

下羽栗小学校では「ひとりだちのできる子」の育成をめざし、地域のかたがたや保護者の皆さんとさまざまな活動をしています。

「トンボ池ボランティア清掃」  
毎年六月のファミリー参観の後、保護者の皆さんと子どもたちとともに、笠松の宝であるトンボ池清掃をしています。先生、地域の皆さんとともに、大粒の汗を流し、ふれあいの場となっています。



「子どもの安全を守る」  
最近、子どもをターゲットにした犯罪が多発しています。このような事案にそなえ、メール配信を含めた緊急体制をしいたり、通学路で車の通行が多い所に新たに通学路標識を立てたりしました。また、保護者による校区、校内のパトロールなど子どもたちの安全を守る為地域の皆さんの協力も得ながら活動しています。



「ひとりだち」  
下羽栗小学校の財産は、三つ有ります。その一つに「あいさつが笑顔でできる」があります。とにかく一度、学校に来てみて下さい。ほんとうにみんな、とってもいい顔であいさつしてくれます。この笑顔のあいさつが家庭、地域に広がり、心温かいふれあい子どもたちが育っています。いつまでもこの笑顔を持ちながら育ってくればと願っています。

下羽栗小学校PTA

会長 宮崎 太

教育委員会  
だより

## 進路を考える

「生活の中のキャリア教育」

今年一月、かつての教え子の成人式に参加して、彼らの言葉遣いが大変丁寧になったことに感心しました。それぞれは、大学などへ進学したり、就職したりしており、その中で着実に成長し、社会のTPOを身に付けてきているのを実感しました。中学のころと変わらないう素直さと、中学のころより一回りも二回りも成長したその逞しさを頼もしく感じ、私自身がたくさんのエネルギーをもらいました。

今日、進路に関して、フリーターやニートの増加が大きな社会問題となっています。将来が不透明で希望がもてない時代になりつつあるのは確かですが、その状況を切り開くのは、やはり一人ひとりの自立です。自分が望む進路選べると同時に、社会から求められる自分づくりについても、さらに考えなければならぬでしょう。

進路というと、どうしても進学・就職と考えがちで、親も子もテストの得点や通

知票の評価ばかりに目が向く傾向があります。しかし、視野を広くすれば、テストの1点や2点よりも、社会の一員として位置付き、貢献していく態度を身に付けていく生き方がそが求められてきます。知識や技能は、それらを実現させるための道具なのです。

面倒な仕事にそっぽを向ける人には、誰も仕事を任せません。顔を見て挨拶もできない人には、大事な相手との応対はさせられません。お子さんたちの普段の生活の中で、仕事やお手伝い、挨拶や言葉遣いなどの様子はどうでしょうか。

成人式に来ていたAさんは、将来エステの店を持ちたいと自分の夢を語ってくれました。中学生の時、誰にでも気さくに声をかけ、責任の重い仕事に積極的に挑戦していた彼女の姿を思い出しました。二十歳になった今も、家の仕事が忙しい時期には、豆腐づくりの仕事を手伝っているそうです。